

「第20回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和2年11月19日(木) 13時00分
都庁第一本庁舎7階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第20回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日の会議には、専門家といたしまして、新型コロナタスクフォースのメンバーでいらっしゃいます東京都医師会副会長の猪口先生と、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生、そして東京 iCDC 専門家ボード座長をお願いしています賀来先生にご出席をいただいております。よろしくをお願いいたします。

それでは早速ですが、「感染状況・医療提供体制の分析」の報告に進みたいと思います。まず感染状況につきまして、大曲先生からお願いいたします。

【大曲先生】

国際医療センターの大曲と申します。

「感染状況」をご報告いたします。

全体の評価としましては、一番上の段階です。赤でありますけれども、「感染が拡大していると思われる」という評価にしております。新規陽性者数、それと接触歴等不明者数が大幅に増加しております。

前週はですね、拡大の始まりということを申し上げましたけれども、今回は急速な感染拡大の局面を迎えたと判断をしております。

特に、重症化のリスクの高い高齢者の新規陽性者数が増えております。高齢者への感染の機会をあらゆる場面で減らすことが必要と考えております。

それでは1枚めくっていただいて、「新規陽性者数」をご紹介いたします。

まず、前提としまして、東京都の外から送られてくる唾液検査の件であります。

これは、患者さんの発生が東京都の外なので、これで出た新規の陽性の方は、東京都の新規陽性者数からは省いております。今週は、その数が84名ということでございました。

新規陽性者数でございますけれども、7日間平均を見ていきますと、前回の約244人から、今回11月18日時点で約326人と大幅に増加しております。11月4日時点が約165人でしたので、2週間で約2倍まで増えたというところでございます。

新規陽性者数が、このように急増しておりますと、週当たりになりますと2,000人を超える高い水準となっております。増加比も、10月末から継続し、100%を超えております。

これを踏まえまして、急速な感染拡大の局面ととらえております。今後の状況を警戒する必要があると考えております。

具体的には、この増加比の133%であります。このペースが4週間続きますと、新規の陽性者数は約3.1倍、約1,020人/日ですけれども、この程度発生する。そういう深刻な状況になり得ると考えております。

①-2にお移りください。年代別の比率でありますけれども、10歳未満が2.1%、10代が5.5%。20代が24.8%。30代が20.3%、40代が15.7%、50代が14.3%。60代が7.5%、70代6.0%、80代が2.9%、90代以上が0.9%でございました。

次に、①-3をご覧ください。高齢者の状況であります。今回の新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者の割合であります。前は13.5%、総数で197人であったわけですが、今回は13.2%と、割合は横ばいなのですが、実数が274でありまして、大幅に増加しているということです。

重症化のリスクが高いということは、高齢者では知られています。その高齢者の新規陽性者数が大幅に増加しております。高齢者への感染の機会をあらゆる場面で減らすことが必要と考えております。

次に①-4の濃厚接触者の動向についてご報告します。感染経路別の割合でございまして、先週と同じく同居する人からの感染が42.1%と最も多い状況でありまして、次に施設、15.9%、それに次いで職場、15.7%、会食が8.2%、接待を伴う飲食店等が2.5%というところでございました。

今回もですね、同居する人からの感染が最も多いというところではありますが、一方で、職場、施設、会食、接待を伴う飲食店といった様々な感染例が出ております。

家庭の外で、具体的には職場ですとか、施設、あるいは飲食店で感染した方がですね、家庭内に新型コロナウイルスを持ち込む。そして、同居する家族が感染してしまうといった事例が見られております。

こうした共同生活あるいは家庭内での感染拡大を防ぐためにも、今一度、家族ぐるみ、そして職場ぐるみで、基本的な感染予防策である、「手洗い、マスクの着用、3密を避ける」、環境の清拭・消毒、それらを徹底する必要があると考えております。

また、特に不特定多数の方々が集まる様々な場がございまして、これは外が寒くて暖房を入れていてもですね、やはり換気が重要でありますので、ドアを開けて風を通すといった効果的な方法で、こまめに換気を徹底する必要があると考えております。

また、なぜこうやって感染が増えるのかということに関しては、これまでの疫学調査でリスクはわかっています。具体的には、人と人が密に接触し、マスクを外して、長時間または深夜にわたる飲酒、複数店にまたがり飲食・飲酒を行う。あるいは大声で会話をする。これらの行動に伴って、感染リスクが著しく高まるということは、もうこれはよくわかっております。

特に、年末年始は忘年会ですとか、そして今後、新年会、初詣といった、大人数で、長時間飲食をする機会あるいはイベントが増えると想定をしております。

感染対策をきちんと徹底していないとですね、こういう場ですね、特に多数の人が密集

して、かつ、大声等の発声を伴う行事、パーティー等を行いますと、これはもう感染リスクは上がります。そうすると、新規の陽性の方がさらに増えるということを懸念しております。

また、在留外国人の方々もですね、年末年始、いろいろなタイミングがあるのですが、自国の伝統あるいは風習に基づいたお祭り等がございます。そこでは、集まって、飲食ですね、することが予想されます。

我々としては、言語ですとか、生活習慣の違い、これによくよく配慮して、情報の提供をするそして支援をする。そして、陽性の方が発生した場合に、濃厚接触者の調査をしますけれども、その拡充を検討する必要があると考えております。

次に、①-5にお移りください。無症状の方のデータです。今週の新規陽性者 2,080 名のうち、無症状の陽性者が 487 名でありまして、大幅に増加しております。割合は 23.4% ございました。

職場に陽性者が出たことによってですね、自発的に検査を受けられる者もおられますし、保健所で本当にしっかりと調査をしていただいております。その濃厚接触者等の調査で、無症状の陽性者が早期に診断されて、その結果、感染の拡大防止に繋がる、これを期待しております。

次に、①-6にお移りください。保健所ごとのデータでございます。今週の保健所別の届出数を見ますと、大田区が 156 名、7.5% でありまして一番多く、次に世田谷が 142 名、6.8% と続きます。みなとが 129 人、6.2%。中央区が 116 人、5.6%。足立区が 113 人、5.4% の順でございました。新規の陽性者数が急増しておりまして、6 保健所で 100 人を超える新規陽性者数が報告されているという状況でございます。

次に、②にお移りください。「#7119 における発熱等相談件数」でございます。

こちらに関しましては、前回は 56.1 件でしたが、今回は 57.9 件という数字でございました。

次に、③の「新規陽性者数における接触歴等不明者数・増加比」についてご報告します。

接触歴等不明者数の 7 日間平均は、前回は約 137 人でしたが、今回は約 183 人ということで、大幅に増加しております。このように高い水準のまま推移してきた接触歴等不明者数が、前週に続いて増えております。今後の動向について厳重に警戒する必要があります。

また、それと同時に、積極的疫学調査の拡充に向けて、これは保健所に負担がかかりますので、支援する必要があると考えております。

次に、③-2にお移りください。新規陽性者における接触歴等不明者数の増加比が 100% を超えますと、増加傾向ととらえております。

増加比でありますけれども、前回は 152% でありましたが、今回約 133% であります。100 を超えて高い値のまま続いているという状況でございます。

このように、増加比が 100% を超えた状況、これが 10 月末から続いております。これらを受けて、急速な感染拡大の局面を迎えたと、我々はとらえております。今後の深刻な状況を厳重に警戒する必要があります。

具体的には現在の増加比のまま 4 週間継続しますと、接触歴等不明の新規陽性者数は約 3.1 倍、計算をしますと約 570 人、1 日あたり 570 人程度発生して、極めて深刻な状況になると考えております。

「感染状況」は以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

引き続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生からお願いいたします。

【猪口先生】

「医療提供体制」について、ご報告させていただきます。

総括のコメントは、上から 2 番目、「体制強化が必要であると思われる」ということです。矢印を見ていただきますと、重症患者数を除いて全部上向きになっております。

入院が必要な患者の急増に対応できる病床の確保、急務である。それから、重症患者数の増加が続けば、予定手術の制限をせざるを得なくなり、通常医療の維持と重症患者のための病床の確保との両立が困難になるということで、橙で維持しておりますけれども、なかなか切迫してきているというところであります。

では、資料ですね、④の表をご覧ください。「PCR 等の検査の陽性率」であります。

7 日間平均の PCR 検査等の陽性率は、前回の 5.0% から 11 月 18 日時点で 5.8% に上昇しました。

また、7 日平均の PCR 検査の人数は、前回 4,556.6 名に対して、11 月 18 日時点で 5,368.7 人と増加いたしました。検査数は増加しておりますけれども、それ以上に新規陽性者数が増加しているため、陽性率が上昇しております。

感染拡大抑止の観点から、無症状者を含めた集中的な PCR 検査を行うなどの戦略を検討する必要があります。

陽性率が上がっておりますけれども、一方でですね、大曲先生の方からありましたけれども、無症状者が 487 名、23.4% と上昇しておりますので、完全に行き届いてないというわけではないんだろうとは思いますが、これに関しては分析の必要があるだろうと思えます。

都は、東京 iCDC のタスクフォースの提言を受けまして、私も所属しております東京都医師会等と連携して、年末年始の検査体制の充実を図ることとしております。

⑤です。「東京ルールの適用件数」です。

東京ルールの適用件数の 7 日間平均は、前回の 42.0 件に続いて、11 月 18 日時点で 47.3 件と増加しました。これに関しましては、今後の推移を注意する必要があります。

⑥-1、「入院患者数」であります。

11 月 18 日時点の入院患者数は、前回の 1,076 人から、1,354 人と増加いたしました。

陽性者以外にも、陽性者と同様の感染防御対策が必要な疑い患者をですね、1 日当たり都

内全域で約 150 人程度受け入れております。

新規陽性者数及び接触歴等不明者数の増加比が 100% 上回るとともに、今週は 1,300 人を超える水準まで大幅に増加しておりますので、長期化している医療機関への負担がさらに強まると考えます。

入院が必要な患者の急増にも対応できる病床の確保が急務であります。このため、都は、医療機関に対し、確実に患者を受け入れるための診療体制の確保を依頼いたしました。

⑥-2 のグラフをお願いします。これは療養状況です。検査陽性者の全療養者数は、11 月 18 日時点で 3,024 人であり、内訳は入院患者 1,354 人、宿泊療養者 607 人、自宅療養者 481 人、入院・療養等調整者が 582 人となっております。

グラフを見ていただきますと、青の入院に対しましてですね、黄色の伸びが増えている。要するに、宿泊療養者が増えてきております。これは、保健所と協働し、東京 iCDC のタスクフォースにおいて「宿泊施設療養/入院判断フロー」をですね、整備するとともに、医療機関との共有を進め、安全な宿泊療養を推進した結果であります。

今後、宿泊療養者が急増する可能性があるため、さらなる宿泊療養施設の体制整備が必要であります。

都は、日本語によるコミュニケーションが不自由な在留外国人に対して、宿泊療養施設における対応策を検討しております。

このままですね、自宅療養者が増加すると、健康観察等を担当する保健所の負担が増加いたします。このため、自宅療養の適切な実施に向けた保健所の取り組みを支援することが必要であると考えます。

「重症患者数」です。

⑦-1 のグラフをお願いいたします。重症患者数は、前回の 38 人から 11 月 18 日時点で 39 人と増減しながら推移しています。

39 人で、ほとんど増えていないように見えますけれども、新たに人工器呼吸器を装着した患者が 23 人、先週は 19 人だったんですけども、23 人でありまして、人工呼吸器から離脱した患者さんは 11 人、人工呼吸器使用中に死亡した患者さんは 4 人でありました。

重症患者においては、ICU の病床の占有期間が長期化することを念頭に置きながら、今後の重症患者数の増加に備えた病床確保が急務であります。

都は、レベル 2 の重症患者数、300 床の体制を視野に入れた診療体制の確保について、医療機関に依頼いたしました。

今後、新規陽性者数の増加比約 133% が 4 週間継続すると、新規陽性者数が約 3.1 倍、1,020 人/日程度発生することが予想されます。

その結果、重症患者数の増加が続けば、予定手術や救急の受け入れの制限等をせざるを得なくなり、通常医療の維持と新型コロナウイルス感染症重症患者のための病床の確保との両立が困難になります。

新規陽性者のうち、重症化リスクが高い高齢者数が増加しておりますので、東京 iCDC に

において、重症化予防のための分析を進めております。

⑦-2、お願いします。これは、年代別のグラフです。こうして見ていただきますと、重症患者数が確実に増えてきております。

重症者数は、11月18日時点で39人、年代別内訳は40代が1人、50代が6人、60代が9人、70代が13人、80代が10人であります。60代以下は死亡者が少ないものの、重症患者全体の約半数を占めています。性別では、男性34人、女性5人でした。

今週報告された死亡者数は10人です。そのうち70代以上の死亡者が6人でした。前々週の9人、前週の3人、今週の10人と推移している状況です。

私の方からは以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、意見交換に移ります。

ただいまご説明のありましたモニタリング分析の説明に関して、あるいは都の対応につきまして、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。

【都知事】

先生方に伺います。重症者の数、今ご説明がありました。高齢者が多いということですが、その中でどういう傾向が見られるのか、例えば持病をお持ちの方と、高齢というだけでなく、どんな傾向があるのか、ちょっと教えていただけますでしょうか。

【大曲先生】

ご紹介いたします。

いろいろな研究を行われた中で、日本のデータでもそうなんですが、いろいろな病気と年齢を並べて比較してみると、やはり年齢の影響が一番大きいんですね、非常に強いです。

ですので、やはり年齢が高いということ自体、重症化のかなり強いリスクであるということとも言えると思います。

若ければ絶対大丈夫かという、決してそうでもなくてですね、例えば身長に比して、ちょっと体重の大きい方、要は肥満になる方ですが、やっぱり重症化している傾向は現場でもわかりますし、データとしても出てきています。

あとは、持病でやはり重症化と関連があるものとしては、日本のデータでも出てきているのが、やっぱり脳血管障害、脳の血管が詰まる脳梗塞ですとか、あるいは心臓の血管の病気ですね、あるいは慢性閉塞性肺疾患と言われますが例えば肺気腫のような肺の病気、あるいは腎臓の病気の方も重症化する傾向があります。例えば、透析をされている方もリスクが高いと思います。

それ以外にも、いわゆる生活習慣病としては糖尿病、あるいは高血圧といったところが、

重症化と関連をするということが言われています。

若い方でも、こうした病気があれば、やっぱりリスクが上がりますし、高齢の方がこうした持病をお持ちの場合は、さらに上がるということとも言えると思います。

【都知事】

ありがとうございます。

ということは、そういうもともとの持病をお持ちで、高齢の方が、ちょっと具合が悪いなと思われたら、できるだけ早めに病院の診療をしていただくということが、重症化を防ぐということにつながる。このように考えてよろしいでしょうか。

【大曲先生】

はい。そのように思います。

ぜひ我慢せずに、早く来ていただければと思います。

我々、先輩方は我慢される方が非常に多いので、心配しています。

一方で、病院で感染するのではないかと怖がってらっしゃることも聞いています。

ただ、病院は、感染対策はしっかりしていますので、そこは怖がらずに来ていただければと思います。

【危機管理監】

ありがとうございます。

それでは、ここで東京 iCDC の専門家ボード座長でいらっしゃいます賀来先生から報告がございました。

【賀来先生】

お願いいたします。今、大曲先生、猪口先生から報告がございました。確実に感染が拡大してきているということ。それから、重症化するリスクの方も増加していくことが懸念されます。今後もそれを受けて、医療提供体制をしっかりと今まで以上に構築していくことが必要だと思います。

東京都では、これまで感染状況や医療体制などのモニタリングがしっかりとなされています。このモニタリングをしっかりとおこなっていくことが、今後の対応の判断にも非常に重要でありますので、今後ともモニタリングを続けていっていただきたいと思います。

また、先ほど猪口先生から、「宿泊施設療養/入院判断フロー」の作成を東京 iCDC で行っているというコメントがございました。

今、実際に入院患者さんが急増しています。このときに、無症状や軽症の方で入院の必要がない方は、できる限り宿泊療養を利用いただくと、病院は、重症の方をできるだけ早く病院に入院していただくことができることとなります。このフロー図はそのような目的で作

ったものであります。

このフロー図は非常にわかりやすく、症状あるいは基礎疾患別に、判断するというフローになっていますので、ぜひ保健所の方々は、このフローを活用して判断をお願いしたいと思います。

今後とも、東京 iCDC において関係機関と連携して、この後、適宜見直しも行っていきたいと思っております。

また、最後に、この冬、これからまた新型コロナウイルスの感染が拡大することが予想されます。ぜひとも、都民の方々へのメッセージを少しお示ししたいと思います。

季節的要因というのは非常に大きくて、新型コロナウイルスは低気温、乾燥状態で活性が維持されます。特に、乾燥状態では、マイクロ飛沫が飛んで感染しやすくなります。

それと、やっぱり3密要因、環境要因ですね。それと人の行動要因、こういった季節的要因、環境（3密）要因、行動要因が重なって感染が拡大してきているのが現状であります。

これについて、やはり東京都でも、家庭内感染が広がっているということです。特に家庭に持ち込まない。そういう行動をぜひ意識していただきたいと思っております。

また、職場あるいは外出先で、手洗いの徹底やマスク着用のこと、休憩時間で、できるだけ少人数で、会話は控えること、などと出勤時、帰宅時に、3密を避ける行動を、ぜひ意識していただきたいと思っております。

3番目で、お店でのことで、非常に重要なポイントですが、やはり人と人が出会うところ、接客時にぜひ感染予防を意識していただければと思います。

最後になります。これはぜひメッセージとしてお伝えしたいと思います。「常にマスクを忘れない」、「常に手洗いを忘れない」、「常に換気に注意する」、近距離で「マスクなしで人と15分以上話さない」ように努める。そして、「家も職場も、毎日掃除と消毒」、いわゆる、マスク、それから手洗い、換気、環境消毒、合わせて、人との会話をぜひ注意していただきたいと、これを大切な項目として、メッセージとしてお伝えしたいと思います。

以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまの賀来先生のご説明に関しまして、何かご質問等ある方いらっしゃいましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、会の最後といたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【都知事】

第20回になりました新型コロナウイルス感染症モニタリング会議であります。

猪口先生、大曲先生、そして賀来先生、お忙しい中のご出席、誠にありがとうございます。

先生方から、まず、「感染状況」であります。最高レベルの4段階目になります赤色が

点り、「感染が拡大していると思われる」とのご判断、そしてまた、「医療提供体制」ですが、4段階のうちの3段階目で、オレンジ色の「体制強化が必要であると思われる」と、維持した形での総括コメントをいただいたところでございます。

まず、「感染状況」ですが、新規陽性者数と接触歴等不明者数が大幅に増加をしていること、急速な感染拡大の局面にあるということ。

特に、高齢者の新規陽性者数が増加、高齢者への感染の機会を、あらゆる場面で減らすことが必要と、また、今お話ございましたように、できるだけ早めに検査を受けて、診察を受けていただきたいという、我慢をせずにとという大曲先生のお話もございました。

感染経路であります。家庭内での感染が最多となっている。

職場、施設、そして飲食店などで感染した人が、家庭内にウイルスを持ち込んで、家族などへ感染させた事例が見られるとのご紹介がございました。

また、重症患者数ですが、前回の38人から39人と、このように微増減しながら推移をしている。

そして、今週報告された死亡者10人のうち、6人は70代以上であったことなどなど、ご指摘をいただいたところでございます。

そしてまた、賀来先生からは、東京iCDC専門家ボードとして、「宿泊施設療養/入院判断フロー」もまとめていただきました。そして、「この冬の感染予防のポイント」について、具体的な方法についてのご説明をいただいたところであります。

以上を踏まえまして、都民、そして事業者の皆様へのお願いでございます。

都民の皆様方には、賀来先生からもご説明がございましたように、基本的な感染対策であります、「手洗い、マスク、3密を避ける」、このことに加えまして、こまめに消毒、喚起を徹底すること。

そしてまた、年末年始が控えております。忘年会、新年会など、飲食の機会が増える、この季節でございます。会食を計画する際には、次のことに注意をということでもあります。

まず、小人数での開催、あらかじめ終了時間を決めておくなど、長時間にならない。こまめに換気ができる場所を設定する。人と人との距離を離して、正面に座らない、テレコにするなど、飛沫を避けるための工夫をすること。そして、虹のステッカーなどお店を選んで、お店の感染防止策に協力していただきたいということでございます。

今週は、高齢者の患者数が大幅に増加をいたしました。

高齢者、また基礎疾患のある方々は、まず会食へのご参加を控えていただきたい。避けていただきたい。

こうした重症化リスクの高い方々と同居しておられるご家族の皆様方も、できるだけ会食への参加を控えていただいて、帰宅時には手洗い、消毒などを徹底して、ウイルスを持ち込まないことをご協力いただきたい。

引き続き、都民・事業者の皆様とともに、「防ごう重症化 守ろう高齢者」、この対策を徹底して進めていきたいと存じます。

そして、事業者の方にも、改めてのお願いでございます。

ガイドラインの徹底、ステッカーの掲示、よろしく申し上げます。

利用者に対しましても、対策への協力を呼びかけていただきたい。そのためのポスターも製作しておりますので、活用してください。

そして、出勤前の体温測定、こまめな換気・消毒など、従業員に向けての対策の徹底もよろしく願いいたします。

次に、「医療提供体制」でございますけれども、ご指摘がありました体制の強化を図って参ります。

それから、患者の受入体制ですが、これは重症用、中等症用合わせますと、150と2,490で2,640が総計になりますが、これがもうすでに確保していただいているところであります。

診療体制を確保して、陽性患者を確実に受け入れること。

また、今後の重症患者数の増加に備えまして、レベル2の重症病床数、これは300ですけれども、これを視野に入れまして、必要な体制を確保することを医療機関にお願いしているところでございます。ご協力のほど、よろしく願いいたします。

また、先ほど賀来先生からご報告がございました「宿泊施設療養/入院判断フロー」、これは保健所の皆さんが、こういう場合にはこういう形だと、参考になる資料をお作りいただいております。これによって、宿泊療養施設のさらなる活用を推進して参りたい。

これ以上、感染の拡大を何としてでも防ぐというためにも、引き続き都民・事業者の皆様方にはご理解・ご協力をお願いする。

本日のモニタリング会議におきましての皆様方への発信とさせていただきます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第20回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。